

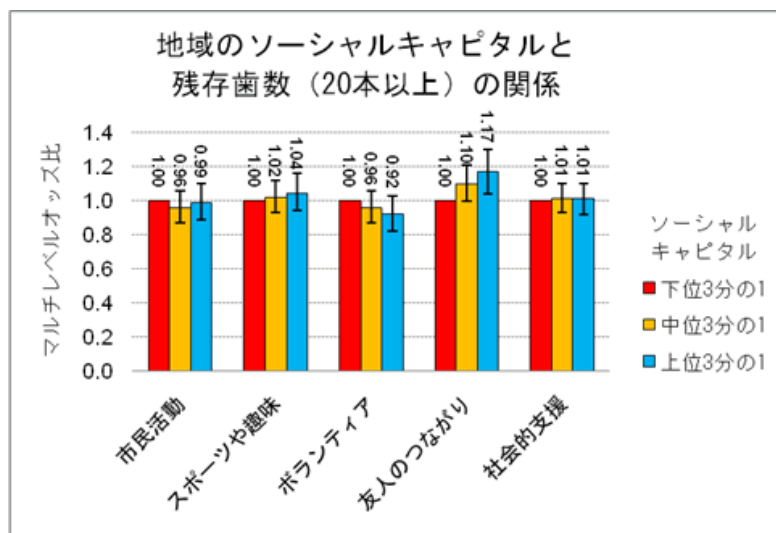
地域のソーシャルキャピタルと残存歯数の関連について： 大崎市民コホート 2006 研究

The association between neighborhood social capital and self-reported dentate status in elderly Japanese - The Ohsaki Cohort 2006 Study.

2010 年 Community Dentistry and Oral Epidemiology 発表

ソーシャルキャピタルが高いほど残存歯数が多い

ソーシャルキャピタルとは、人々の信頼やつながりから生まれる社会の資源を意味します。このソーシャルキャピタルが豊かなほど、健康状態が良いということが報告されています。ソーシャルキャピタルが豊かであれば、健康に関する情報が広まるのが早い、近所の人々の良い保健行動を真似するといったことで定着しやすい、地域の保健医療サービスを活発にするような住民の働きかけがある、といった可能性が考えられます。しかし、歯の健康とソーシャルキャピタルの関係はあまり分かっていません。また、個人個人のつながり（ソーシャルネットワーク）や助けてくれる人がいるか（社会的支援）を考慮したうえでも、地域のソーシャルキャピタルが歯の健康と関連するのかは分かっていません。そこで本研究では宮城県内の調査集団（コホート）のデータを解析して、ソーシャルキャピタルと残存歯数にどのような関連があるかを調査しました。



市民活動・スポーツや趣味・ボランティア・友人のつながり・人々の助け合いの5つの項目の豊かさを地域ごとに算出して、地域のソーシャルキャピタルの指標を作りました。これらの指標の豊かさにより、ソーシャルキャピタルが下位・中位・上位と地域を3等分に区分しました。解析の結果、友人のつながりに基づくソーシャルキャピタルが豊かな地域（上位）の居住者は、下位の地域に比べて約2割、20本以上歯が残っている可能性が高いという関連を見出しました。

研究のデータについて

本研究は2006年の12月に実施した大崎市民健康調査を用いて解析しました。大崎市民健康調査は65歳以上（当時）の住民31,237名を対象に実施したアンケート調査で、23,091名から有効回答を得ました。本研究では残存歯数に関する質問に完全回答した21,736名について解析を行いました。

ソーシャルキャピタルについて

ネットワークと社会的支援をアンケートの回答から得ました。それらを地域ごとに集計してソーシャルキャピタルの指標を作成しました。ネットワークは、市民活動・スポーツや趣味・ボランティア・友人のつながりのそれぞれへの参加頻度を「していない」、「年に数回程度」、「月に1日程度」、「月に2～2日程度」、「週に1日」、「週に2～3日」、「週に4日以上」の中から選択していただきました。社会的支援は、困ったときの相談相手・体の具合が悪いときの相談相手・日常生活の援助してくれる人・具合が悪い時に病院に連れて行ってくれる人・寝込んだ時に身の回りの世話をしてくれる人の5つについて、助けてくれる人がいるかどうかを「はい」、「いいえ」から選択していただきました。そして地域ごとに、4つのネットワークそれぞれの、「していない」以外の回答を

された方の割合を計算しました。また、社会的支援については「はい」の回答者がすべての質問で高かったため、5 つすべての質問に「はい」と回答された方の割合を地域ごとに計算しました。これら4つのネットワークと1つの社会的支援から計算した5つの指標を、ソーシャルキャピタルの指標としました。解析の際には、ソーシャルキャピタルが下位・中位・上位の3群の違いが分かるようにしました

残存歯数について

残存歯数は、アンケートの回答から得ました。自己回答で「まったくない(0本)」、「ほとんどない(1~9本)」、「半分くらいある(10~19本)」、「だいたいある(20~24本)」、「ほとんどある(25~27本)」、「全部ある(28本)」の中から選択していただきました。歯数のカットオフ点は20本にとり解析を行いました。

他のリスク要因の影響について

この研究では、ソーシャルキャピタルと残存歯数に関連すると考えられる要因の影響を考慮してデータの解析をしました。具体的には、年齢、性別、学歴、歯磨きの頻度、歯磨き時間、糸ようじや歯間ブラシの利用の有無、治療以外の歯科受診の有無、菓子類の摂取頻度、糖尿病の既往歴、主観的健康観といった要因について、ソーシャルキャピタルの高低によって解析対象者を分けた群の間に偏りがなくなるように統計学的な処理を行いました。

また、ネットワークや社会的支援を持つ人が多い地域では、残存歯数が多い方が頻繁にいらっしゃる可能性があります。個人のネットワークや社会的支援に関係なく、ソーシャルキャピタルが高い地域に居住する人は残存歯数が多いのかどうかを検討するため、ネットワークと社会的支援も考慮した統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

この研究で、友人のつながりに基づくソーシャルキャピタルが豊かな地域の居住者は、歯を喪失しにくいという関連が示されました。この研究の結果は、一般住民を対象とした大規模な調査で、様々な要因の影響を考慮して得られたものであり、同様の調査を行った横断研究と比較して信頼度が高いと考えられます。ただし、横断研究であるため時間的な前後関係は不明であるということ、残存歯数は自己回答によるもので、実際の歯数がその回答通りなのかについての調査が行われていないこと、より詳細で広範囲なソーシャルキャピタルや歯科保健行動について考慮していないという限界があります。
